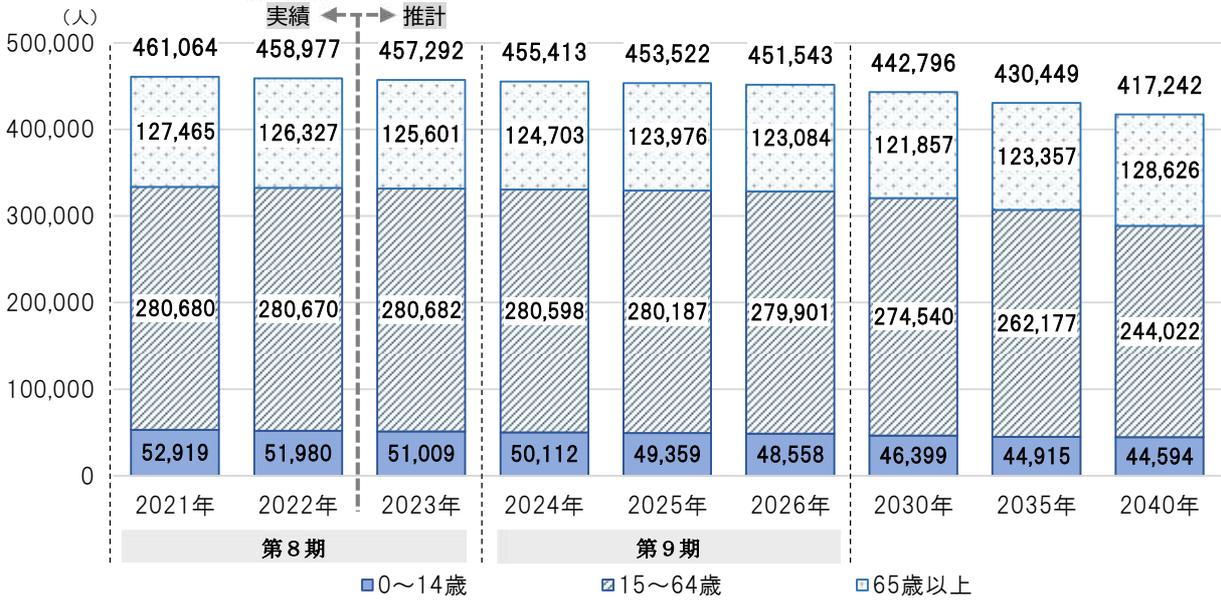


# 第9期計画の将来推計、2040年の将来推計

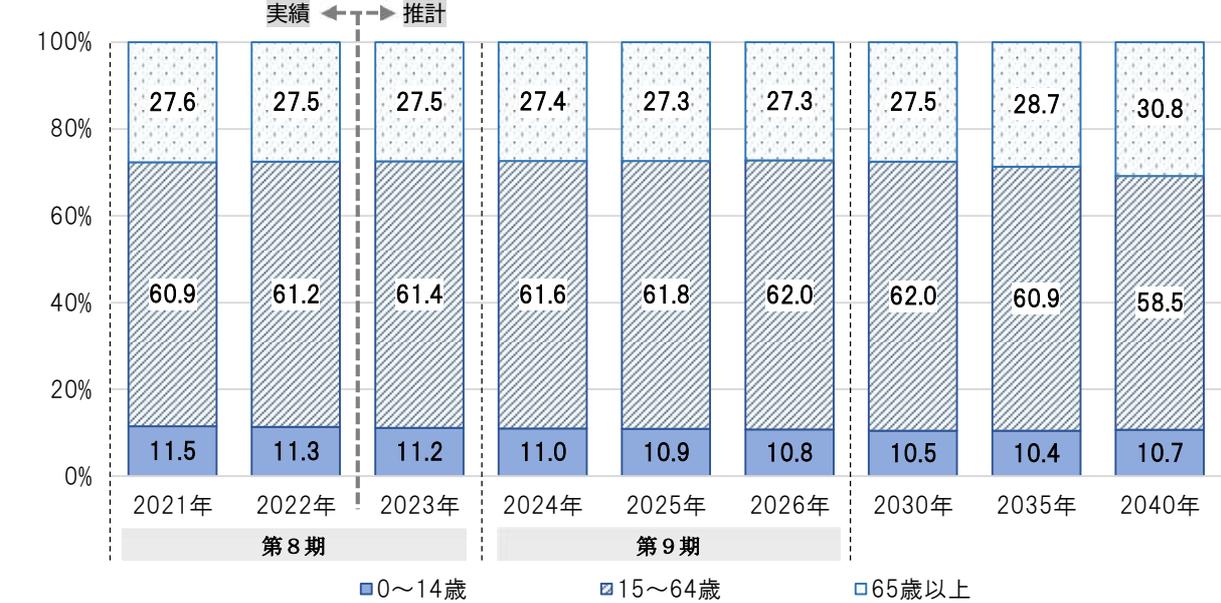
## 1. 人口推計

- 総人口は年々減少し、第9期計画期間の最終年度である2026年には451,543人、2040年には417,242人になると推計されます。高齢者人口は、2021年以降減少傾向となっているものの、2035年には増加に転じ、2040年には128,626人になると見込まれます。
- 高齢化率は、第9期計画期間内は横ばい傾向となるものの、その後増加に転じ、2040年には30.8%となると見込まれます。

《年齢3区分別人口の推移》



《年齢3区分別人口割合の推移》

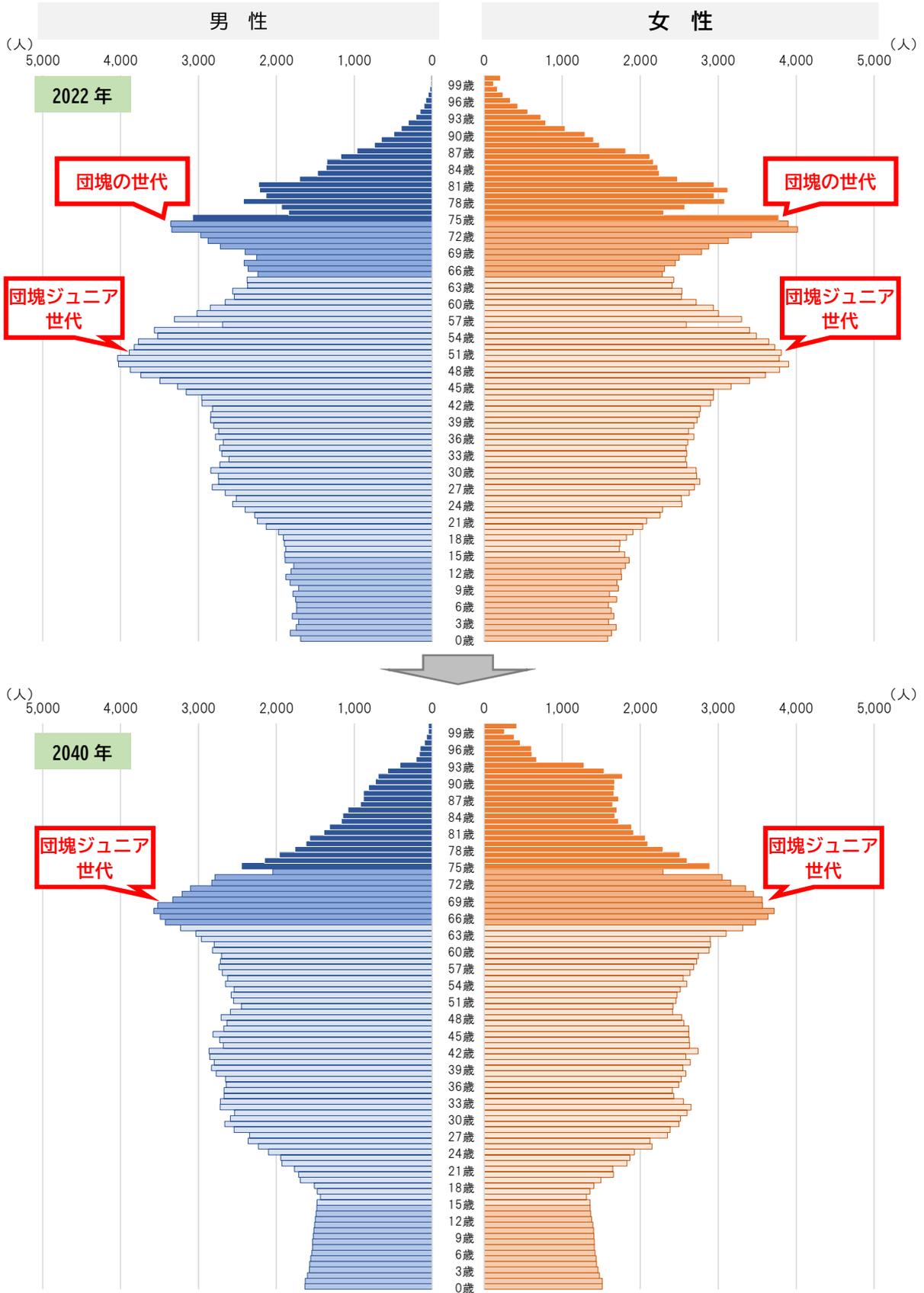


《人口推計の方法：コーホート変化率法》

人口推計は、2018年から2022年の9月末現在の住民基本台帳人口を使用し、年齢1歳刻み男女別人口から各年での移動率を算出し、その移動率を平均化して2040年までを推計。

○人口ピラミッドをみると、今後5年間では高齢期を迎える人は少ないものの、団塊の世代が75歳以上となります。また、2040年には団塊ジュニア世代が高齢期を迎えることが推測されます。

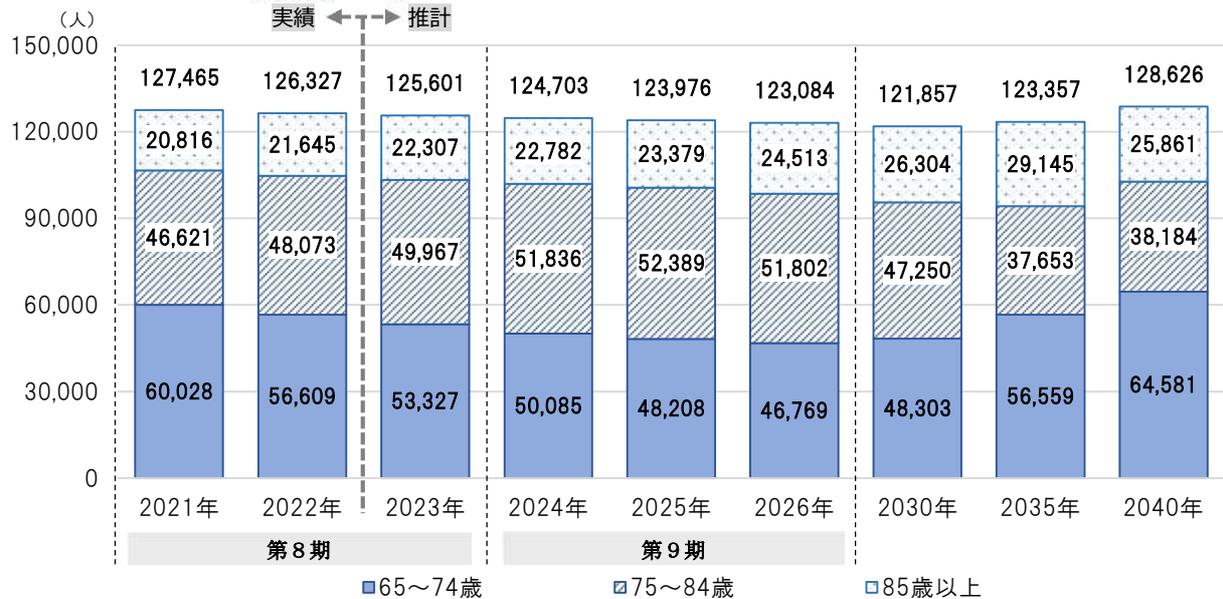
《人口ピラミッド》



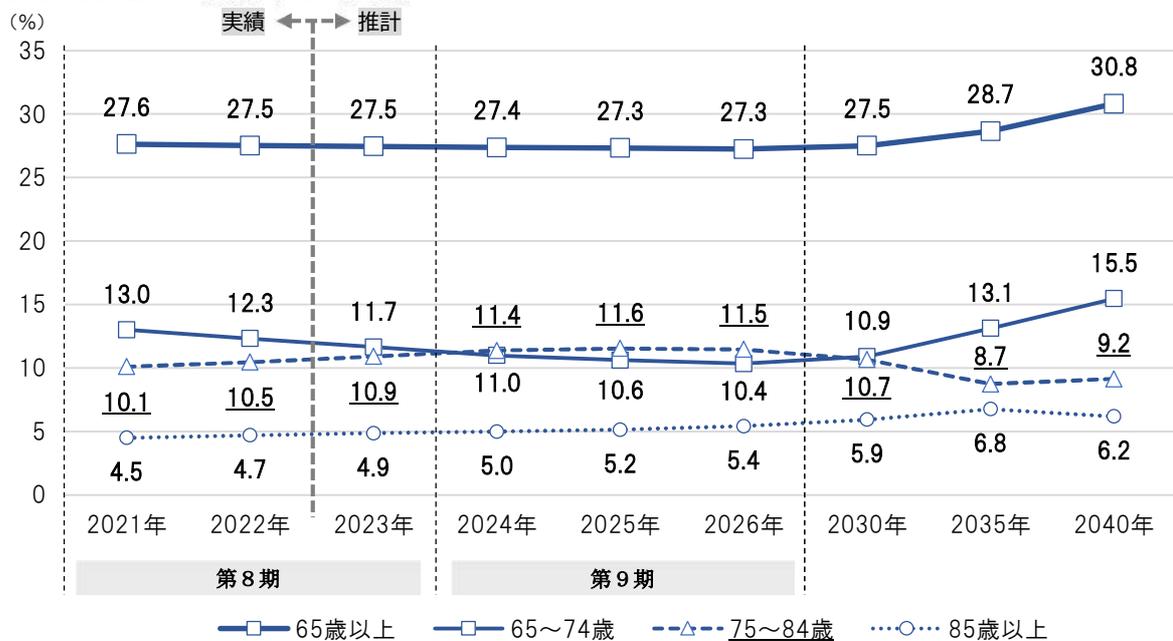
## 2. 高齢者人口の推計

- 高齢者人口の将来推計を年齢別にみると、第9期計画期間の最終年度である2026年まで65～74歳人口は減少するものの、その後は増加に転じ、2040年には64,581人になると見込まれます。
- 75～84歳人口は、第9期計画期間内は横ばい傾向となっているものの、その後は減少傾向となり、2040年には38,184人になると見込まれます。
- 85歳以上人口は、2035年まで増加傾向となっています。

《年齢別高齢者人口の将来推計》



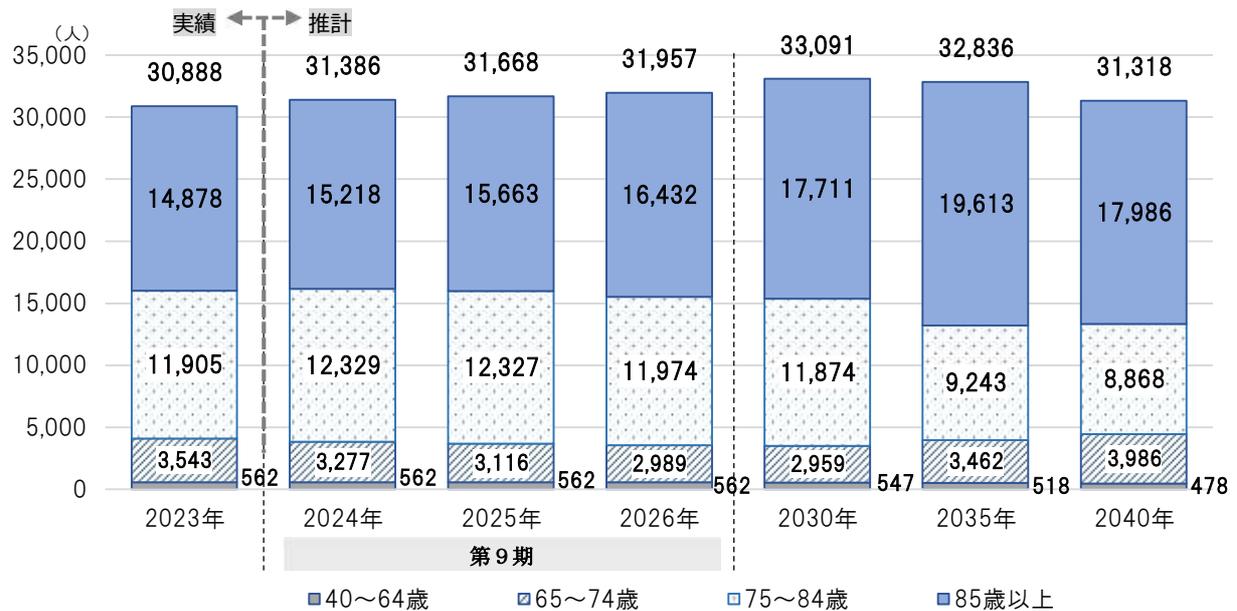
《年齢別高齢者人口割合の将来推計》



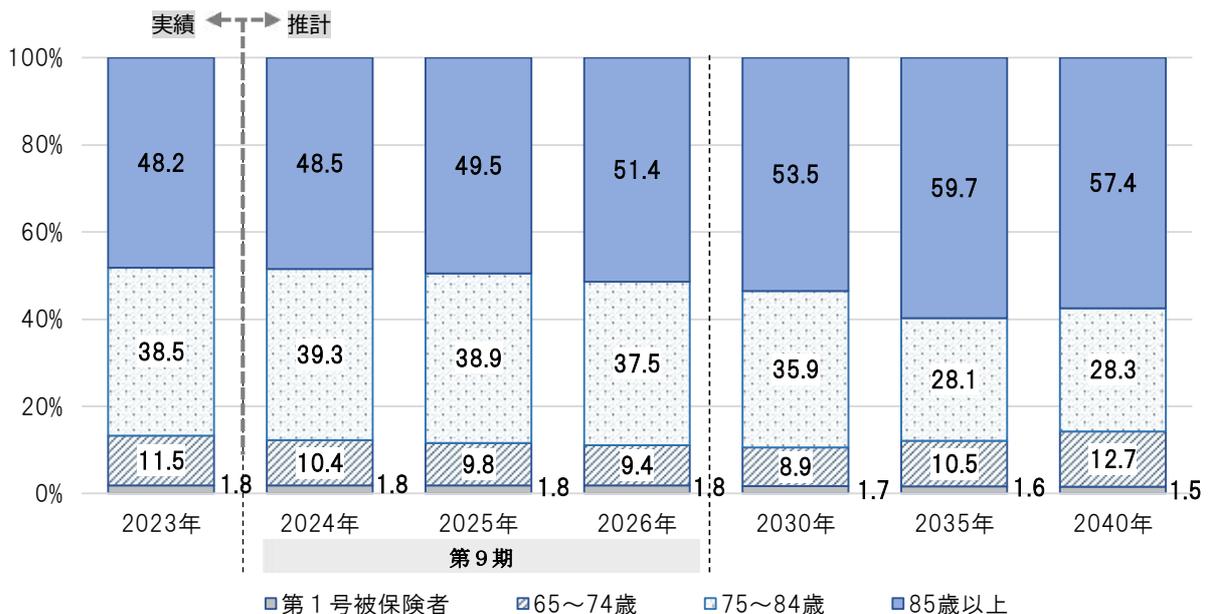
### 3. 要支援・要介護認定者数の推計《暫定値》

- 要支援・要介護認定者数は2030年まで増加するものの、その後は減少し、2040年には31,318人になると見込まれます。
- 85歳以上の要支援・要介護認定者数の増加が大きく、2035年には約20,000人になると見込まれます。
- 要支援・要介護認定者の構成割合をみると、今後、85歳以上高齢者の占める割合が増加し、第9期計画期間内は約半数、2035年には約6割になると推計されます。

《要支援・要介護認定者数の将来推計》



《要支援・要介護認定者構成割合の将来推計》



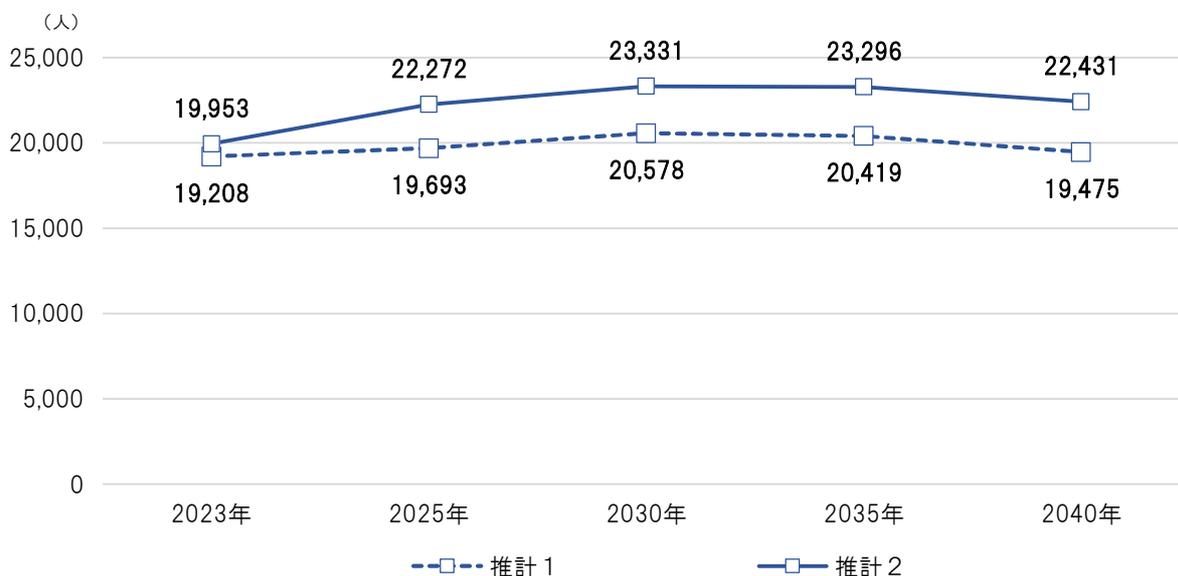
《要支援・要介護認定者数の推計方法》

算出した人口推計をもとに、2023年6月時点の要支援・要介護認定者の男女別年齢5歳階級別の認定率を算出し、その率を乗じて算出（年齢別の認定率は2040年まで一定であると仮定）。

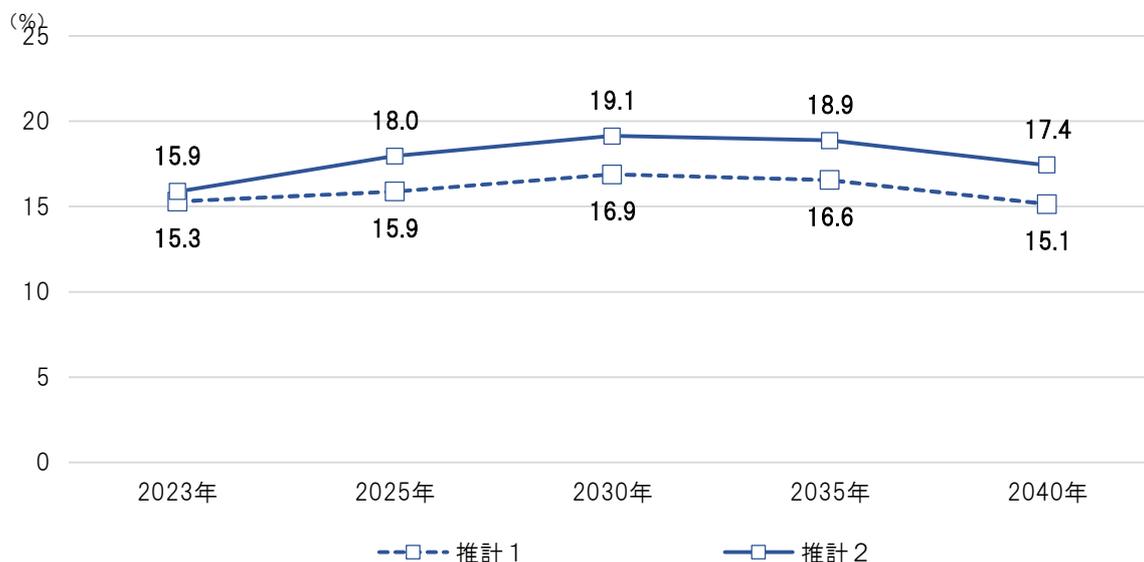
#### 4. 認知症高齢者の推計《暫定値》

○推計方法により大きな差があるものの、第9期計画期間である2025年には現在より認知症高齢者数が増加すると見込まれます。

##### 《認知症高齢者数の将来推計》



##### 《高齢者に占める認知症高齢者割合の将来推計》



##### 《認知症高齢者の推計方法》

推計1：本市の2023年6月時点における要支援・要介護認定者のうち、認知症自立度がⅡ以上と判定された人の割合が、今後も続くと仮定して推計。

推計2：男女別年齢別認知症有病率を用い、男女別年齢別認知症有病率が今後も変化がないと仮定し、推計。  
(率は、国の認知症調査研究で公表されているものを使用)